

平成27年度 自己評価計画書（中間報告）

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	中間評価
1 分かる授業を実践することによって、基礎学力の定着と論理的・批判的思考力の育成を図り、キャリア教育の実践と3年間の進路指導態勢の充実を図り、進路志望100%実現を目指す。 ・ICTや学びなおしの効果的な活用と評価及び言語活動の充実を図り、生徒の学ぶ意欲を喚起する。 ・学習規律を遵守させる指導を徹底し、学習習慣の確立を組織的に指導する。	シラバスに学び直しの項目を入れ、それに沿った授業を行う。また、学び直し教材を活用し、適切に評価し、学習意欲を喚起することによって基礎学力の定着を図る。	各教科 教務課	学び直しのための教材を作成したり、活用した教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	教職員調査 (H27.7 実施) A(33.3)+B(57.1)=90.4% 達成度：A	シラバスに学び直しの項目を入れ学び直し教材を活用し学習意欲を高めるよう努めている。また、朝学習では「マナトレ」を実施し、国語・数学・英語の基礎学力の向上や、これまでの学習の躓きを発見・改善するために実施している。今後も学習意欲の向上を図る工夫を重ねていきたい。
	書画カメラやパソコンなどのICTを活用し、映像や視覚的な効果を取り入れ、学習意欲を喚起し、授業改善を図る。	各教科 教務課	職員がICTを年間に活用した回数が A：70回 以上 B：50回 以上 C：40回 以上 D：40回 未満 ICTの活用により、学習意欲が高まったと感じている生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	年度末に集計 生徒調査 (H27.7 実施) A(23.5)+B(33.2)=56.7% 達成度：D	職員のICTの活用回数の平均が週1.6回と少ない状況である。生徒による授業評価アンケートでも最も評価が低い項目である(56.7%)。 2学期の互見授業週間ではICTを用いた授業に取り組み、校内研修を進めながら活用回数を増やしていく。ICTを積極的に活用している科目では学習意欲が高く、ICTの活用を高める取り組みを通して生徒の学習意欲を高めていく。
	各教室に「学びの4か条」の掲示や学習規律の確立に努め、主体的に授業に取り組む態度の定着を図る。	各教科 教務課	学習規律の遵守を指導している教員と学習規律を守っている生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	教職員調査 (H27.7 実施) A(38.1)+B(61.9)=100% 生徒調査 (H27.7 実施) A(42.5)+B(43.5)=86.0% 達成度：B	全ての教員が学習規律の遵守に努めていると回答している。「マナーを守っている」と回答している生徒が86%、「授業に集中している」と回答している生徒が91%で指導の徹底が十分とは言えない。より一層生徒への働きかけを行っていく。
	「聞く」「話す」場面や「考え」「発表する」などの機会を設け、主体的に授業に参加させ、分かる授業づくりを実践し、基礎学力の定着を図る。	各教科 教務課	言語活動の場面を設けている教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	生徒調査 (H27.7 実施) A(44.8)+B(39.3)=84.2% 達成度：B	授業評価アンケートでは、「考えたり、活動したりする場面がある」と回答している生徒の割合は84.2%である。思考力・表現力を身につけさせるため言語活動を充実させ、今後も授業改善に取り組み学力の定着を図っていく。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	中間評価
1	全校で取り組んでいる家庭学習教材の点検や授業で使用する課題プリント、週末課題等を生徒に提供し、計画的に学習に取り組ませる。	各教科 教務課 各学年	家庭学習時間が平日 60 分以上、休日 120 分以上の生徒の割合が A : 70% 以上 B : 60% 以上 C : 50% 以上 D : 50% 未満	生徒調査 (H27.7 実施) 平日 60 分以上 35.2% 休日 120 分以上 15.1% 達成度 : D	昨年度は平日 60 分以上、休日 120 分以上の割合が、平日 15.0%で休日は 8.6%で、平日、休日ともに改善しているが、その割合は 3 人に 1 人とどまっている。今後も週末課題（自学ノート）やケータイ・スマホと家庭学習時間調査を通して家庭学習時間が増えるよう取り組んでいく。
	生徒の進路意識を向上させ、早期に進路目標を設定することができるよう指導し、進路実現のために学習に主体的に取り組むよう、各学年のキャリア教育を段階的・系統的に関連付けて実施する。	進路指 導課 各学年	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っていると感じる生徒の割合が A : 80% 以上 B : 70% 以上 C : 60% 以上 D : 60% 未満	生徒調査 (H27.7 実施) A(36.9)+B(39.5)=76.4% 達成度 : B	1 年生は 1 学期に、進路ガイダンス・進路講話等を実施し、今後は企業見学・大学見学等を通して適切なコース選択につないでいく。2 年生は 1 学期に、就職講話・インターンシップ等の行事を実施し、今後は明確な志望進路を決定できるよう、より一層進路意識の向上を図る。3 年生は 1 学期に、目標を絞り込んだ進路の実現に向けて、より細やかな内容で進路（就職・進学）ガイダンスやインターンシップ等を実施した。
	個々の生徒の思いや情報が把握できる面談シートを活用し、ホーム担任が個人面談を適時適切に行うよう努め、進路意識の向上と進路実現を目指す。	進路指 導課 各学年	個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に効果があったとする生徒の割合が A : 80% 以上 B : 70% 以上 C : 60% 以上 D : 60% 未満	生徒調査 (H27.7 実施) A(28.0)+B(40.3)=68.3% 達成度 : D	1 学期の面談では、現在の学校生活における状況や学校生活への適応を確認し、各学年の進路目標を提示した。今後、1 年生はコース選択、2 年生はより具体的な進路選択を考え、進路意識の向上を図る面談を実施する。3 年生は、引き続きデータを基にした効果的な面談を実施して、進路実現を図りたい。
	進路ガイダンス、模擬試験、補習、小論文、面接指導などの系統的・段階的な取組を実施し、生徒の進路志望 100% 実現を目指す。	進路指 導課 各学年	生徒の進路志望の実現率が A : 就職・進学の進路実現 100% 国公立大合格者 2 名以上 B : 就職・進学の進路実現 100% 国公立大合格者 1 名 C : 就職・進学の進路実現 100% 国公立大合格者なし D : 就職・進学の進路実現 100%未 満 国公立大合格者なし	年度末に集計	現在の 3 年生の進路希望について 進学 : 31 名 就職 : 28 名

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	中間評価
2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努め、挨拶の励行と社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身に付けさせ、自ら考え、行動する自主自律の精神を持った社会人の資質を培う。	登下校指導を行い、教師が積極的に挨拶を交わし、全校挙げて生徒によるあいさつ運動の充実を図るとともに、身だしなみ(端正な制服の着こなしと頭髪)を守ることによって、社会人の一員としての自覚を促す。	生徒指導課 各学年	「生徒同士や職員、外部からの来客や地域の方々に対し自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪の身だしなみがきちんとしている」と答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	生徒調査 (H27.7実施) 来客者への挨拶 94.9% 大きな声の挨拶 66.9% 服装・頭髪 A(42.5)+B(43.5)=88.7% 達成度：B	「外部の来校者に対してあいさつができてい」と回答した生徒の割合は94.9%で、「大きな声であいさつができてい」と回答した生徒の割合は66.9%で、声を出すことに課題がある。 「服装・頭髪など高校生らしい身なりをしてい」と回答した割合は86.0%である。服装・頭髪の身だしなみを守ろうとする意識が高まり指導に従おうとしていた。授業の終始の挨拶指導など一定の効果がみられるので今後も継続して指導していく必要がある。
	全教職員が協働して、遅刻ゼロ運動を進める。 ・各学年の遅刻ゼロ日数を生徒玄関に掲示する ・個別面談等を行い、個々の生徒の自覚を高める。	生徒指導課 各学年	遅刻ゼロ日数指標 1学年 80% (155日) 2学年 85% (165日) 3学年 85% (145日) 遅刻ゼロ日数の達成率が A：各学年とも目標を達成した B：全学年が70% 以上 C：全学年が60% 以上 D：全学年が60% 未満	遅刻ゼロ日数(69日) 1学年 88.4%(61日) 2学年 81.1%(56日) 3学年 79.7%(55日) 達成度：B	遅刻ゼロ日数は、 H26.7月(70日) H27.7月(69日) 1学年 80.0%(56日) 88.4%(61日) 2学年 65.7%(46日) 81.1%(56日) 3学年 67.1%(47日) 79.7%(55日) 怠惰な生活態度による遅刻者が減少している。時間に対する意識の向上や、遅刻後の指導に一定の効果がみられた。やや固定している遅刻者に対して粘り強く指導を続けていく必要がある。
	悩みを持つ個々の生徒に応じたきめ細かな面談を行い、ホーム担任・教育相談担当、スクールカウンセラー、地域サポート教員等との連携をより密にすることで、解決に向けた効果的な支援を行う。	厚生課 各学年	生徒の悩みに先生が相談に応じてくれていると答えた生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	生徒調査 (H27.7実施) A(26.3)+B(39.2)=65.5% 達成度：C	「学校は学校生活に関する悩みに対応してくれている」と回答した生徒の割合は65.5%で昨年度(64.8%)とあまり変化がない。生活習慣実態調査(生活自己チェックカード記入、年間7回)により実態を把握している。ホーム担任、教育相談、スクールカウンセラー、部顧問等が連携し悩みを持つ生徒に対してより一層きめ細かく面談を行い、支援を継続することで悩み対応の満足度を高めたい。
3 生徒と積極的にかかわりを持ち、部活動の一層の活性化・充実を図る。	生徒会執行部や各種委員会、学級において、生徒一人ひとりが自らの役割を理解し、積極的に活動できるよう指導する。	生徒会課 各学年	所属する係の仕事を理解し、自分の役割を果たせたという生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満	生徒調査 (H27.7実施) A(25.8)+B(44.1)=69.9% 達成度：C	生徒が自分の役割を果たすために各係のシステムを今一度確認していく必要がある。後期の活動に向けて、各係の顧問とも連携し、活動が積極的になるように指導していく必要がある。学校祭をはじめ、後期にかけて予定されている行事を通して、普段の学級での取り組みに対して、主体的に役割を果たせるよう働きかけていきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	中間評価
3 学校行事、生徒会活動、部活動、地域への貢献活動やボランティア活動で、生徒の自主性や参加意欲、成就感を育てるとともに、宝達高生としての母校への帰属意識や自己有用感の涵養に努め、人間性や社会性を磨く。	生徒会と連携し、清掃の大切さを呼びかけ、美化コンクールを活性化して、環境美化への意識を高める。	生徒会課 厚生課	進んで清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A : 100% B : 90% 以上 C : 80% 以上 D : 80% 未満	生徒調査 (H27.7 実施) A(38.4)+B(42.7)=81.1% 達成度：C	昨年同期(79.4%)と大きな変化はないが、依然として約2割の生徒については、意識の改善が必要である。今年度は美化コンクールを学期ごとに予定しており、生徒全員が自ら進んで清掃に取り組む姿勢が身に付くよう、環境整備委員会活動を通して今後も意識の向上を図りたい。
	部活動の組織的運営を図り、積極的に部活動に参加し、年間を通して継続的に取り組むことができるよう指導する。	生徒会課 厚生課	年間を通して部活動に参加して部活動を行っている生徒の割合が A : 100% B : 90% 以上 C : 80% 以上 D : 70% 未満	加入調査 (H27.5 実施) 部活動加入率 98% 達成度：B	5月の部活動加入調査において、現在98%の生徒が部活動に所属している。また、活動状況も熱心で各大会にも出場し頑張っている。これは、生徒への粘り強い指導と職員の連携が実を結んだのではないかと考えられる。2学期以降も、部活動への積極的な取り組みを継続指導していく。
	生徒会や部単位での活動を主として、宝達・敷浪駅周辺の清掃活動をはじめ、地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。	生徒会課 総務課 各学年	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が A : 80% 以上 B : 75% 以上 C : 70% 以上 D : 70% 未満	生徒調査 (H27.7 実施) A(28.5)+B(43.0)=71.5% 達成度：C	第3回部ボランティア活動までの間83%の生徒が部ボランティア活動に参加している。また、「今後、ボランティア活動に積極的に取り組みたい」と考えている生徒は72%となっており、前年度(69%)より3%伸びている。ボランティア活動への意欲が高まっており、これが積極的な取り組みとなるよう、工夫し充実を図っていきたい。
4 積極的に保護者や地域に本校の良さや成果等の情報、提案等を発信するとともに、小・中学校との連携を一層密にし、保護者や地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	学校からの配付物を保護者に渡す指導を今後とも徹底すると同時に、メール配信システムを導入し、活用することで、配付物を含めた学校情報を確実に保護者に届ける。	総務課 各学年	配付物を保護者に届けた生徒の割合と、学校情報を知ることができた保護者の割合は、それぞれが A : 80% 以上 B : 75% 以上 C : 70% 以上 D : 70% 未満	生徒・保護者調査 (H27.7 実施) 生徒 A(40.5)+B(39.5)=80.0% 保護者 A(18.1)+B(62.1)=80.2% 達成度：A	「配付物を保護者に届けた」生徒の割合と、「学校情報を知ることができた」保護者の割合は、両者共80%以上である。メール配信システム導入の効果が現れたものと予想される。(昨年度 生徒75.1% 保護者75.5%) 今後とも配付物を保護者へ届ける生徒への指導、メール配信システムの利用を活用して、向上を目指したい。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	中間評価
	<p>情報提供は、文書やHPの更新を通して、きめ細かく発信するとともに、地域や中学校等を対象にした情報発信にも努め、全職員が中学校を訪問し、生徒募集に努める。</p>	<p>総務課 各学年</p>	<p>宝高だより、学年だより等の紙媒体の発行回数が</p> <p>A：20回以上・35回以上 B：15回以上・30回未満 C：いずれかがB基準を下回る D：いずれも B基準を下回る</p>	<p>年度末に集計</p>	<p>総務課として学校行事を中心としたHPの更新は、8月4日現在までに14回(36件の情報)行っている。また学校だよりを5月に、宝高タイムズは現在まで3号発行し、近隣の中学校に配付した。学年だよりは各学年とも2回発行している。</p> <p>今後ともHP更新を含めて機を逃さずにタイムリーに学校情報の発信に努めたい。</p>